

塩見岳

【日程】2016年8月19日～2016年8月20日

【エリア】南アルプス

【形態】ハイキング

【メンバー】K岡、Y尾、M本、I藤

【報告】I藤

《ルート／タイム》

8月19日

木津（5：00）～京奈和/名神/中央道～松川 I/C～大鹿村～鳥倉林道～林道終点駐車場（9：45）

駐車場発（10：00）～林道登山口（10：30）～三伏峠（13：40/13/50）～三伏山（14：10）～

8月20日

小屋発（5：05）～塩見岳（西峰/東峰 6：15/6：40）～小屋（7：30/7：50）～三伏峠（10：40/11：00）

～登山口（13：05）～駐車場（13：30）活動時間：15H40/活動距離：28 km/高低差：1436m/累積標高：4200m（注）スマホアプリの衛星記録による



《報告》

経緯

当初男性2名、女性2名で行く計画であったが、男性一名が不参加になり、塩見岳には数年前に行かれているMさんが急きょ参加となりメンバー4名で登ることになった。気心の分かった仲間なので、歩くスピードや休憩のタイミングなど行動パターンが似通ったことに心が和み安心する。

勤務の関係で、2日の休暇しか取れず難しい条件で何時もより早く自宅を4:30に出発し、夕食時間ギリギリの5時過ぎに塩見小屋に着く少々強行な計画になってしまった。

心配した交通渋滞もなく経験者が二人いたことでややこしい林道入口などで迷うことなく前記のコースタイムで行くことができた。

8月19日（金曜日）

5時に木津を出発。数日前に関東沖を通過した台風の影響で天気は今一。中央道から見る中央アや今回行く南アの山々は雲に覆われていた。前回、共同食の焼きそばの肉を買わずにきて鳥倉林道の入口で買った話や、暗がりの中で不安感を抱きながら林道をドライブし駐車場に着いたことなど話題になったが、今回はスムーズに林道ゲート前の駐車場に予定通りに着いた。

ゲートから寺沢に沿って3キロメートルの登りの林道を進んでいくと、簡易トイレと登山届を出す半畳ぐらいの屋根のついたボックスがある広場に到着。ここが塩見岳への登山口である。この箇所だけ自転車を利用する登山者もいるようで数台の自転車が停められていた。



登山届を出し、よく手入れのとどいた落葉松林の美林の登山道を登っていく。

日本一高いと言われている三伏峠まで約三時間。峠には山小屋がありテント場もある。そこまで行くのに、一合目、二合目・・・を表すのに1/10、2/10・・・と10分割された標識が木に取り付けてある。それを意識しながらまだかまだかと思ひ

歩くのも少々ストレスを感じる。

小屋から更に登りが続き三伏山と本谷山の二つのピークを越える。

晴れていればこのピークから前方に塩見岳が見えるとのことだが今日は雲の中。この二つのピークを越えると約160メートル登山道を下る。そのあたりはツガ類やトウヒ類の美林の平地で広い台地になっている。前回来た時に、せっかく高度をかせいだのに160mも下降するのは“がっかり”することになることから、この大地を「がっかり平」とメンバーが命名した経緯があるとのこと。

これを過ぎると、小屋までの最後の樹林帯の急登が約一時間続く。もう着くよ、今度こそ小屋が見える

という声に励まされ、裏切られたりしながら予定通りの時刻 5 時に小屋に着く。

遅くなるかもしれないので途中からその旨、電話連絡をして、夕食は最終の 3 ラウンド目の五時半にしてもらうことにしていたが、その時間に食事をとったのは我々だけであった。



小屋は新築されオーナーも替わったようで、今年の 7 月 1 日にオープンしたとのこと。立地が難しく中二階形式の小屋が二棟ある。一棟は宿泊スペースの小屋で、他に本館あり、食堂、調理場、宿泊スペースとなっている。定員は 40 名で 54 名まで収容可能でシーズン中は何時も満杯状態で利用できない登山者も多いようだ。

寝具は大きなシュラフで銀マットがついている。6 時過ぎにはシュラフに入った。

8 月 20 日（土曜日）

朝食は本館食堂で 4 : 30 から可能とのことと 15 分前から食堂前で待機する。5 : 05 風が少々あったので稜線での強風対策で雨具を着て出発。天気は悪くはない。月が綺麗に輝いていた。塩見岳の稜線に人影があり岩稜の登山道にも先行の人影がぼつぼつ見える。K 氏、Y 氏、M 氏、I の順に先頭のリーダーのペースで一步一步高度を稼いでいく。登山道は岩稜を右に左と曲折しているが難渋することもなく最後の稜線に出たときは、視界の広がりで一気に爽快な気分になった。ほどなく、塩見岳の西峰につく。



足の早い登山者には先行してもらいマイペースで歩いたが、頂上にはコースタイムより短い時間で到着できた。かなりの強風である。東峰まではなだらかな尾根道ですぐ行けるのであるが、K 氏と M 氏は以前に東峰を踏んでいるので岩陰で強風を避けて休憩する。

東の目の前には白峰三山の稜線がくっきりと見える。間ノ岳の大きい山容、その隣の農鳥岳の稜線、間ノ岳の向こうに小さく北岳の頂き、その向こうに甲斐駒ヶ岳、更に、左にごつごつとした山容の仙丈岳

が見える。西の眼前には中央アルプスの稜線が見え特徴的な形から山名が同定できる。遠くには北アルプスも穂高連峰や槍が一塊になって見える。天候は昼前から下りでポツポツ降りですが、我々が山頂にいる間はほぼ快晴であった。なんとブロッケン現象も見ることが出来た。



岩稜の下山は気を付けて慎重に、後続者には先行をすすめ、安全にマイペースで降りた。小屋からは登り7時間の長い縦走路を淡々と、M氏、Y氏、K氏、Iの順で下山していく。「がっかり平」から本谷山へ向かう途中で休憩していると、同山岳会のNさんと同伴者の二人に出くわしびっくり。約5分位、情報交換してお互いの健闘と安全を祈り別れる。

その頃は雨がぼつりぼつりと降りだし、ザックカバーとカッパの雨対策をせざるを得ない状況になってきていたので、Nさんたちのこれからの行動が気になり、天候の回復を祈ったが雨足は強くなるばかりで駐車場に着いたときは強い降りになっていた。

雨に濡れて長い登山道を急いで降りてきたため大変疲労がたまり、足がつり、股関節から腰のあたりや足の裏が痛むなどそれぞれの状態で駐車場に到着する。帰りに寄った温泉宿は浴槽全体が半露天風呂風に谷の上部に拓けていて天気が良ければ赤石岳が見えるというところで、貸切同然の温泉で疲れを癒し、もぎたての美味しいリンゴを買い帰路を急いだ。